



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」(通巻 279 号)

同志社大学入試のこだわり「記述式」

「教育理念」と「学生受入に対する基本理念」を確認する



この時期、気になるのが母校・同志社大学の人気である。そこで google で調べて見ると次のような結果があるサイトに出ていた。

人気を偏差値・就職実績・入学試験志願者数の 3 点で評価すると

同志社大学>関西学院大学>立命館大学=関西大学、の順だそうです。

しかし、世間で判断されるのは、「受験者数」である事が多い。

「受験者数」では、関西大学>立命館大学>同志社大学>関西学院大学の順です。

この分析は年度によって異なってくるものだが、受験者数については、近年、ほぼ変わっていないのです。その理由を大学関係者に尋ねると「記述式にあるようです」とのこと。

受験生の中で「記述式」を不得意とする者は、同志社大学を避ける傾向があるようです。近年、少子高齢化で受験生が減少しているが、それでも同志社大学は記述式に拘っている。

同志社関係者によると「他大学でも記述式の重要性は分かっているが、いざその問題作成と採点ということになると、大学側、教員側の能力と労力が大変で、マークシート方式に比べ、かなりの負担増になる」とのこと。

共通テストの英語民間試験の延期に続き、国語・数学の記述式についても採点の正確性などから延期することになったが、文科省も記述式の良さは元々認識していたのです。

同志社大学としては、記述式の意味を更に深いところで捉えているのです。

この機会に次の内容を是非、ご確認いただきたいと思います。

(大学の HP より) <同志社大学>一般選抜入学試験 出題方針

同志社大学は、創立者新島襄の建学の精神に基づき、「深く学問・技芸を探究するとともに、自治自立の精神を涵養し、国際感覚豊かな人物を育成する」ことを目的に、キリスト教主義を基本として人格を陶冶する教育を行っています。

この教育理念を基本に置きながら、同志社大学では、140 年を超える長きにわたって、社会的視野と倜儻不羈（てきとうふき・『才気がすぐれ、独立心が旺盛で、常軌では律しがたいこと』）の精神を兼ね備え、良心を手腕に運用しながら社会の発展に貢献できる人物を育成してきており、現在もその責務を果たすべく努力を積み重ねてきています。

同志社大学の学生受入に対する基本理念（アドミッション・ポリシー）は、上述の教育理念に基づいており、

- 1) 専門的・実学的能力を高める上で土台となる、幅広い教養と論理思考能力を育成するために必要な基礎学力を有し、
- 2) 知識の量だけでなく、社会的視野を持ち、大学での学習に対する意欲と熱意があり、
- 3) 多様な背景を持つ者と協働して学ぶ寛容の精神と主体性を持ち合わせ、
- 4) 優れた感性と特性を持った学生を受け入れることを目指し、多彩な選抜制度を用意しています。

同志社大学の一般選抜入学試験は、高等学校教育を尊重しつつ、大学教育を受けるにふさわしい能力と適性を備えたものを公正かつ 妥当に選抜することを目的としています。

入試問題の作成にあたっては、全学的に組織された科目ごとの出題委員会において長期間にわたって慎重に審議し、検討を重ね、高等学校での着実な学習努力が報われるように難問や奇問を避け、公平で偏りのない出題に留意しています。

解答形式についても、マークシート方式をとらずにできるだけ記述式とし、論理的思考力や正確な表現力をみるよう努めています。特に計算力を問う出題については、記述式解答の方法をとり、丁寧に採点しています。

(<同志社大学>一般選抜入学試験 出題方針 以上)

詳細及び学部毎のアドミッション・ポリシーは、同志社大学ホームページにてご覧いただけます。

その一部ですが、「国語の出題方針」を次に掲載しました。

「国語の出題方針」

国語の出題は、ここ数年、現代文一題、古文一題の形式を取ることが多いが、昨年度、現代文二題の形式をひとつ出題した。現代文二題の場合でも、現代文一題の場合と同程度の分量・難易度となるようにした。現代文・古文ともに、文章を読んで選択肢で解答する設問が 5～6 問と、記述式の設問が 1 問である。

記述式は現代文が 40 字、古文が 30 字で答える形式となっている。配点は現代文 90 点、古文が 60 点であり、試験時間は 75 分である。これらの構成は、例年ほぼ同じものである。現代文は、いずれの日程でも論説の文章（随想風のものも含む）から出題しており、例年の傾向を踏まえている。論説で取り上げる素材は、文学・文化・美術・社会学・自然科学など多岐にわたっている。文章の長さは、6000 字前後程度のもので、比較的長文といえる。

大学では、専門的な学術研究を行うために基本的な読解力を身につける必要がある。大学での学びは、定められた教科書の学習ではなく、多くの分野の文献を読み、それらを理解し、まとめて、自分の研究に活かす形をとることが求められる。そのためには文章の分野を問わず、さまざまな文献から情報を吸収できる素地が必要となる。したがって、比較的長文の読解を通して、その力量を判定したいと考えている。長文の文章全体からの的確にポイントを読み取る能力や、反対に細部の意味を把握する能力を確かめたい。古文は、上代から近世までの文献から、説話・物語・随筆・日記などのさまざまな分野から出題している。文章の長さは、800 字～1200 字程度である。著名でないものからの出題もあるが、内容は明確なものを選んでおり、難問にならないよう十分に配慮している。

大学では、各分野の研究において古典的な文献の読解も求められる。その意味で古文の読解力は、大学での学術研究においても必要なものといえる。そのための能力を高校での古文の学習を通して身につけているかを確認するのが、試験の目的である。

現代文・古文ともに、語句の表現や文脈を正しく理解しているか問うことを重視している。選択肢の設問では、語句の知識を踏まえて、文脈の要点となる箇所を質問している。

記述式の設問では、文章全体を的確にまとめ文章化することを求めている。

（「国語の出題方針」以上）

.....

「記述式」について松岡学長は、「週刊新潮」で次のように話されていた。

「私も記述式はとても重要だと思っています。(私は) 数学の採点にずっと関わってきましたが、記述式は論理的な思考を全て見ることができます。なぜその答えに到達したかがわかる。

そしてもう一つ、思わぬ解き方にも出会います。解は一つでも解き方は一つではない。それも見ることができるのが記述式です。

だから記述式は、その大学でその学生がきちんと学んでいける学力の保証になります。

.....

入試問題を作成する能力「作問力」は、その学校の個性が決まると言われます。

昨年、『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』が話題になった。それは、日本の中高生の多くが中学校の教科書を正確に読めていないことを明らかにした衝撃の書である同志社大学としてそのような学生はお断りしたい。

他の私立大学の知り合いの先生によると「記述式とか小論文とかを潜り抜けた学生には一定の理解能力と作文能力があり、入学後の授業の高いレベルが期待できます。しかし、これをくぐってないと、入学後のレポートなどは、内容どころか文章の添削から始めないといけない」とぼやいていた。

ある同志社関係者も「同志社大学は、一部の受験生から嫌がられても「記述式」を頑張ってきたのですが、それは、誇りに思えることです。同志社大学出身の各方面に活躍する人材の輩出を見ていると、他大学とは一味違った面があるようで、その性格もじわりと出てきたと言ったら、ひいき見でしょうか。」(談)

冒頭のインターネットの分析サイトでは、次のように結んでいた。

「特に、同志社大学の人気の上昇は計り知れませんね!」「2020 年度も同志社大学の人気は更に加速していくことになるかと受験関係者のほとんどは予測しています!」と。

以上、同志社大学が「記述式」拘ることに誇りを持っていただきたいものです。■